

## 基本構想（案）等に対する委員の意見について

項 目	主 な 意 見
1 基本理念について	<p>(1) 「協創」と「貢献」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良く出来ている。</li> <li>・良く出来ている。県民と一緒に、特長のある差別化された県を創りましょうという、メッセージが感じられる。</li> <li>・「協創」という言葉は新しい造語なので、県民に意味をイメージできるような表現の検討が必要。何と何、どこどこが協創しあうのか、分かりやすい説明がほしい。</li> <li>・このような趣旨の文言に賛成であるが、字句的な問題として次のような印象も持つ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・協創ということばは、造語に近い感じであり日常的ではない。</li> <li>・貢献は、行政側が協力を求めるという雰囲気を取れなくもない。</li> </ul> そのため、「共に創り育む」というような記述的なものを置くことはどうか。「創る」はもともと「新しく」という意味を持っており、「誇れるものを」という感じがあり、「育む」は何となく若い人たちを大切にするという感じを与えるように思う。ともかく、「記述的なもの」の模索もしてはどうか。</li> <li>・「協創」と「貢献」が少し分かりづらいのではっきりさせたい。また、3つの目標の表現と比べ硬さがある。</li> <li>・「協創」と「貢献」の貢献の意味が不適切ではないか。貢献の主役が、県民に貢献させるのか、県が貢献するのか等、判断に苦しむ。県民誰もが判るような表現の方がよいのではないか。</li> <li>・目指すべき基本方向としての意味合いからすれば、こんな文字が当てられるのかと思うが、県民や他県の人が見た時にもっと分かりやすい、メッセージ性を持ったテーマにしてはどうか。「協」ではなく「共」を当てなかった理由は何か。</li> <li>・「協創」には、さまざまな人及び行政やその他企業・組織・団体の協力と創造の意味をこめていと解されるが、このような理解でよいか。</li> <li>・「貢献」は、誰の誰に対する貢献を意味するかが重要。「協創」の上記の解釈とあわせて考えると、さまざまな人や組織・団体との相互の協力による貢献と解されるが、このような理解でよいか。</li> <li>・基本理念に賛同する。ただし、「心豊かで質の高い生活と社会」の係り受けが少々不自然のような気がする。</li> </ul>
	<p>(2) 「目指す姿」について</p> <p>①「誰もが人のやさしさを感じながら、安心して住み続けることができる県」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やさしさ」という言葉より、「たすけあう」ことの必要性を強調してはどうか。無縁社会の到来という課題は「人の結びつき」による地域再生のなかで回避されると思う。「人と人がたすけあい、交流しあう力で安心の社会をつくる」ことで力を感じさせてはどうか。</li> <li>・「やさしさ」「やさしい」等の表現はよく見られるが、「人のやさしさを感じながら」は情緒的表現で意味を読み取りにくいと思うので、「人との関わりを楽しみ」に変えてはどうか。</li> </ul>

項 目	主 な 意 見	
1 基本理念について	<p>②「一人一人が社会の中で役割を持ち、尊び合い、高め合える県」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「役割を持ち」とあるが、もう一つ「目標（希望）」を加え、「みんなが社会のなかで目標と役割を持つ」というのはどうか。役割だけでは曖昧だし、貢献することは誰かに動かされると感覚を生みやすいので。みんなが希望という目標の実現に向けて主体的に行動する必要性を感じさせたほうがいいのではないか。</li> <li>・「役割を持ち」は、持たせるや持たなければならぬと意図にも読めるので、住民自らがみいだす表現として「役割をみいだし」へ、また、住民どうしが互いに高めあうことをイメージした表現として「たがいに高め合える県」へ変えてはどうか。</li> </ul>	
	<p>③「これからの時代を切り開く独自のモデルを創造し日本と世界に貢献する県」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これからの」は不要ではないか。</li> <li>・「これからの時代」という表現を、地球的規模の人類の課題への貢献をイメージして「人類の未来」と表すのはどうか。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「これからの若い人を育てる」という意味のことがもっとあった方がよい。また、全体的に表現が長いように感じるので、次のように変えてはどうか。</li> <li>⇒①お互いに人のやさしさを感じ、安心して住むことができる県</li> <li>⇒②未来を担う人が育ち、一人一人が社会の中で活躍できる県</li> <li>⇒③時代を切り開くモデルを創造し、日本と世界に貢献できる県</li> </ul>	
2 3つの目標と目指すべき将来像	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表題の「3つの目標と目指すべき将来像」は、「目標と将来像」でよい。</li> <li>・2035年頃を展望する内容として、十分である。</li> <li>・四半世紀後を見据えた目標とすれば、この3つの目標に集約されるが、目標全体の中心は「人が輝くいばらき」だと思う。</li> <li>・基本的に3つの目標を置くことに賛成。それぞれの内容についてもよいが、字句については推敲が必要。</li> <li>・3つの将来像の外形（項目数など）を、もっとそろえるべき。また、文章ももう少し短めにした方がよい。</li> </ul>	<p>住みよい</p> <p>【 将来像 】</p> <p>「誰もが安心して保健・医療・介護・福祉サービスが受けられる県」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスが受けられればよいのではなく、誰もがよい人生だったと思えるような県を目指すべきではないか。</li> </ul> <p>「暮らしの中に美しさや潤いがあり、誰にもやさしく快適に暮らせる県」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味が分かりにくい。暮らしに必要な機能が保証され、街の景観、文化、歴史、環境が守られる調和のとれた美しい町づくりを目指すということか。それとも、経済的に安定した社会を目指すことが、潤いややさしさにつながる意味なのか。</li> <li>・住民の意思の反映や参加を後半の表現に込め、「暮らしの中に潤いがあり、誰もが快適な暮らしをめざすことのできる県」はどうか。</li> </ul>

<p>2 3つの目標と目指すべき将来像</p>	<p>人が輝く</p>	<p><b>【 将来像 】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輝いている人々の具体的なイメージを付与したい。将来像に国際交流の視点からもう一つ柱を作りたい。</li> <li>・横断的連携の概念が入ったほうがよい。</li> </ul> <p>「地域全体が一体となって次の世代を育むとともに、誰もが目的意識を持って個性や能力を伸ばす教育先進県」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域が協力して次の世代を育み、誰もが個性や能力を伸ばせる教育先進県」としたらどうか。</li> <li>・①と②の重なり表現を取捨選択し、「地域づくりへの参加と学びを通して次の世代を育む県」としたらどうか。</li> </ul> <p>「誰もが個性や能力を活用して社会で活躍し、地域づくりの主役となっている県」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どの世代も社会で活躍でき、誰もが地域づくりの担い手となっている県」としたらどうか。</li> <li>・①と②の重なり表現を取捨選択し、「誰もが希望の実現にむけ個性や能力を發揮できる教育の創造をめざす県」としたらどうか。</li> </ul>
	<p>活力ある</p>	<p><b>【 目 標 】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界に貢献する元気な産業や生活を豊かにする産業・・・」を「生活を充実させる産業・・・」としたらどうか。</li> </ul> <p><b>【 将来像 】</b></p> <p>「国際競争力あるものづくり産業や生活に結びつく産業が盛んで、豊かな暮らしを実現している県」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かな暮らし」を「質の高い暮らし」としたらどうか。</li> </ul>
<p>3 基本戦略</p>	<p>全 体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体系の作りは分かりやすい。</li> <li>・全体的に「人が輝くいばらき」の部分が弱い。まず、項目数をそろえた方がよい。</li> <li>・「基本戦略」の部分は、詰めたものにしなくて各部会の意向を聞いた上で定めた方がよい。</li> <li>・「人を育てる」とか「(高齢者などの)活動の場をつくる」という内容のものが少ない。</li> <li>・働き方の問題や家庭づくりへの支援はどこに入るか。県民は日常の暮らしへの関心が高いので、家族や家庭支援、雇用創出、地域の活性化などへの取り組みが見える文言が必要。</li> <li>・理念があって将来像を見据え、そして短期的（5年）の戦略であると思うが、戦略は場合によっては年次別に変わることもあるかと思う。また、具体的に見える姿を示すことが必要ではないか。</li> </ul>

項 目	主 な 意 見
3 基本戦略	<p>住みよい</p> <p>①「豊かな自然を守り、みんなで取り組む地球にやさしいエコ戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かな自然を守り、みんなで取り組む（いばらき）エコロジー戦略」はどうか。</li> </ul> <p>「人にやさしい快適なまちづくり戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「快適」を使用しないほうがよい。</li> <li>・情緒的な流行ことばである「やさしい」を言い換え、「人の快適生活を実現する地域づくり戦略」はどうか。</li> </ul>
	<p>人が輝く</p> <p>「いばらきを担うたくましい人づくり戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育を入れるべき。</li> <li>・グローバル社会に対応した「いばらきの教育」を開発し、世界に発信する教育（自治）県として、「人類の未来を展望できる人づくり戦略」はどうか。</li> </ul> <p>②「地域の元気を支える豊かな心と健やかな体づくり戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健やか」の表現が「体力」のみを形容している点が気になり、「地域を担う健やかで豊かな心と体を育む戦略」はどうか。</li> </ul> <p>③「希望あふれる自己実現と社会貢献の場づくり戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「希望あふれる自己実現」は意味が読み取れない。「社会貢献の場作り」を行政が行うという発想は、協働のまちづくりという時流にそぐわない表現であるため、「一人一人の生きがいと社会の希望を紡ぐ、協働の学びづくり戦略」はどうか。</li> </ul>
	<p>活力ある</p> <p>「世界に貢献する科学技術創造立県戦略」</p> <p>「国際競争力ある産業と生活を豊かにする産業づくり戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かに」を削除または修正したほうが良い。</li> </ul> <p>「世界と日本をつなぐ一大交流拠点づくり戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①～③とあるが、まず国内への貢献、競争力、国内と県をつなぐことが基本だと思う。また、国内の起業が減少傾向にあり、廃業が多くなっていることから、これらの活力に結びつくような文言がよいのではないか。</li> </ul>
4 いばらきモデル推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いばらきモデル」は、どの程度これに関する具体案が出せるかの見通しを付けた上で考える必要がある。さらに、この部分も詰めたものにしなくて各部会の意向を聞いた上で定めた方がよい。</li> <li>・3つの目標とそれぞれの将来像を実現していくための「いばらきモデル」の精神が、「協創」と「貢献」にあるとすれば、その関係をもう少し分かりやすくしたい。</li> </ul>

### (1) 基本理念について

- ・ 県民は、基本構想にたいして、どのような茨城の未来像が描かれるかを期待しているのではないか。それに対して、最初に「協創と貢献」といった行動姿勢を表す言葉を置くのは分かりにくい印象がある。もっとストレートに望ましい未来像を置くべきではないか。  
例えば、誰もが住みたい次世代のいばらきを創る、高齢化社会に備えて安全・安心、元気な茨城を創る
- ・ 「協創」は県民がともに創るという意味で分かるが、「貢献」は誰が何に貢献するのだろうか。貢献はある種の使命感を求める意味が含まれると思うが、行政が県民に呼びかける言葉としてふさわしいかどうか検討を要する。

### (2) 3つの目標ごとの目指すべき将来像

- ・ 「住みよいいばらき」「活力あるいばらき」「人が輝くいばらき」の3つの目標は、どれも基本的に重要なものであるが、3つが並列的であるので県民を引きつける魅力に乏しい。また、なぜ、「今」「茨城で」この目標掲げるのかが明確ではない。
- ・ 今後、人口減少・高齢化が進み、財政的にも困難が増すことを考えると、「住みよいいばらき」＝県民が新しい幸福度を実感できる生活スタイル・それを支える県土環境の提供、をもっとも重視すべきではないか。そのために、活力や人づくりが貢献する（新しいライフスタイルの開拓、医療・教育を含めたインフラ整備とサービス産業の開拓、社会のグリーン化など）という目標の構造を作るのがよいと思う。
- ・ 長期的な活力の維持には、首都圏、アジアの新興国との関係が重要になり、特に県南や工業集積地ではそうであろう。一方、中山間地・里山の残る地域では自然を生かした生活など異なる目標が必要である。そうであれば、地域ごとに多様性がある目標を示すべきではないか。その方が全県単一目標よりもリアリティがある。また、それが他県、外国人を含めて多くの人を茨城に引きつける魅力になるのではないか。

### (3) 基本戦略

- ・ 戦略が総花的で、並列的である。10個の戦略分野を平行して進めれば、5年後の目標が達成できると実感するのは難しい。
- ・ (2)でも述べたように、「住みよいいばらき」に向けて、全ての行政分野を動員するようなダイナミックな戦略ができないだろうか。例えば、科学技術の開発を茨城県の豊かな生活に貢献するように組織することや、また、茨城発の科学技術が世界で注目されれば茨城の誇りになる、というように、どの分野も相互に関係してとらえることが重要ではないか。その意味では、横断型・課題解決型の「いばらきモデル推進戦略」の方を前面にだすのもいいアイデアである。
- ・ 戦略の中に、行政（県政）の役割と県民の役割に関する戦略提案も入れるのがよい。
- ・ この総合計画検討において、行政担当者の問題意識をもっとダイレクトに出されてはいいかがか。行政担当者としてより明確に茨城の課題を把握されているので、ぜひ、何を克服すべきか、可能な解決策は何かを示していただければ、議論が非常に豊かになると確信する。